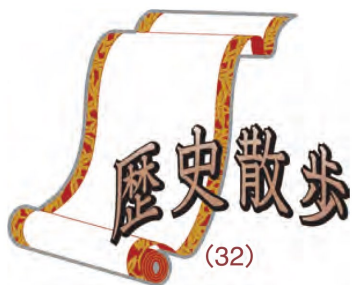


谷川士清旧宅



バス…三重交通バス「土手」下車徒歩5分

車…伊勢自動車道津ICから車で10分

5月から6回にわたって今年入府400年となる藤堂高虎公ゆかりの地を紹介してきた。

今月からは、来年2月に生誕300年を迎える国学者谷川士清とゆかりの地を紹介しよう。

谷川士清は、宝永6（1709）年に八町の医師谷川よしふみ義章の長男として生まれた。幼少のころより勉学に励み、12歳で難解な漢方医学書を読破したとの記録がある。22歳で京都に出て医学・本草学（薬学）を学び、国学や神道、花道も修めて27歳で帰郷し、家業を継いで医者（産婦人科医）として活躍した。医者としての評判は高く、それ以上に高く評価されるのが国学者としての業績である。中でも『日本書紀通証』と『和訓栞くんのしおり』は著名で、その作成過程で生まれた日本語の動詞活用図表である『倭語通音わごつうおん』と併せ国学や国語学の発展に大きな業績を残した。『倭語通音』は当時の学者の注目となり、20歳年下であるが学問のライバル関係にあった松阪の本居宣長もその功績をたたえている。

谷川士清旧宅は旧伊賀街道に面し、連子格子れんじこうしに一見すると平屋に見える「つし二階」の建物が、当時のたたずまいを見せている。国史跡の建物は、30年ほど前に解体修理を終え、士清の活躍した時代のままに復元されて公開されている。建物内部には彼の人となりや業績を紹介する資料が展示され、訪れる人に士清の生活や研究過程などを伝えている。

（「広報津」平成20年11月1日号）

